

CASBEE-広島（2010年ver.1）
ウェルデン南観音二丁目

 用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版
■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
			評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質							3.0		
Q1 室内環境				0.40			3.1		
1 音環境			2.6	0.15	2.8	1.00	2.7		
1.1 騒音		コンクリート躯体とし、@200に設定 遮音性に優れた防音タイプのフローリングを使用している	3.0	0.40	3.0	0.40			
1 暗騒音レベル			3.0	1.00	3.0	1.00			
設備騒音対策				-		-			
1.2 遮音			3.0	0.40	3.5	0.40			
1 開口部遮音性能			3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能				-	4.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	4.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	0.20			
1.3 吸音			1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境			2.6	0.35	3.0	1.00	2.9		
2.1 室温制御			3.0	0.50	3.0	1.00			
1 室温設定			3.0	0.63	-	-			
自然換気・自然採光対策				-		-			
3 外皮性能			3.0	0.38	3.0	1.00			
4 ゾーン別制御性				-		-			
自然・人工照明・冷暖房・給排水・換気設備の個別制御				-		-			
自然・人工照明・冷暖房・給排水・換気設備の個別制御				-		-			
自然・人工照明・冷暖房・給排水・換気設備の個別制御				-		-			
2.2 湿度制御			1.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式			3.0	0.30	-	-			
3 光・視環境			2.7	0.25	3.5	1.00	3.4		
3.1 屋光利用		居室に対して開口の大きいサッシを使用している	3.0	0.30	4.0	0.50			
1 屋光率			-	-	5.0	0.50			
2 方位別開口				-		0.30			
3 屋光利用設備			3.0	1.00	3.0	0.20			
3.2 グレア対策			2.0	0.30	3.0	0.50			
自然採光・人工照明のバランス				-		-			
2 屋光制御			2.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度			3.0	0.15	-	-			
1 照度			3.0	1.00	-	-			
自然採光・人工照明のバランス				-		-			
3.4 照明制御			3.0	0.25	-	-			
4 空気質環境			3.6	0.25	3.3	1.00	3.3		
4.1 発生源対策		住戸内建築材料はほぼF☆☆☆☆を使用	4.0	0.60	4.0	0.63			
1 化学汚染物質			4.0	1.00	4.0	1.00			
放射線対策				-		-			
空気汚染対策				-		-			
4.2 換気			3.0	0.40	2.3	0.38			
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能				-	1.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33			
自然換気・機械換気				-		-			
4.3 運用管理				-		-			
1 CO ₂ の監視				-		-			
2 喫煙の制御				-		-			
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	3.2		
1 機能性			2.2	0.40	3.8	1.00	3.7		
1.1 機能性・使いやすさ		住戸内LAN配管対応とし、光ケーブル対応としている	1.0	0.60	4.0	0.60			
1 広さ・収納性				-		-			
2 高度情報通信設備対応				-	4.0	1.00			
3 バリアフリー計画			1.0	1.00		-			
1.2 心理性・快適性			4.0	0.40	3.5	0.40			
1 広さ感・景観				-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース				-		-			
3 内装計画			4.0	1.00	4.0	0.50			
共用部は美観に努め、住戸内は利便性を高めた				-		-			
1.3 維持管理				-		-			
1 維持管理に配慮した設計				-		-			
2 維持管理用機能の確保				-		-			
2 耐用性・信頼性			2.9	0.31		-	2.9		
2.1 耐震・免震			3.0	0.48		-			
1 耐震性			3.0	0.80		-			
2 免震・制振性能			3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数			2.7	0.33		-			
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23		-			
2 外壁仕上材の補修必要間隔			3.0	0.23		-			
3 主要内装仕上材の更新必要間隔			3.0	0.09		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.15		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.23		-			

	2.3 設備の更新					-		-	
	2.4 信頼性				3.2	0.19		-	
	1	空調・換気設備			3.0	0.20		-	
	2	給排水・衛生設備			3.0	0.20		-	
	3	電気設備			3.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法			3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備	情報設備機能の多様化を図る		4.0	0.20		-	
	3 対応性・更新性				2.8	0.29	2.8	1.00	2.8
	3.1 空間のゆとり					-	2.6	0.50	
	1	階高のゆとり				-	3.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ				-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり					-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性				2.8	1.00		-	
	1	空調配管の更新性			3.0	0.17		-	
	2	給排水管の更新性			2.0	0.17		-	
	3	電気配線の更新性			3.0	0.11		-	
	4	通信配線の更新性			3.0	0.11		-	
	5	設備機器の更新性			3.0	0.22		-	
	6	バックアップスペース			3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)					—	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出					2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮					3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30		-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性					—	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー					—	0.40	-	-	3.4
1 建物の熱負荷抑制					3.0	0.40		-	3.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20		-	3.0
	2.1	自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50		-	
	2.2	自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		設備関係は高効率なものを使用する			4.0	0.40		-	4.0
4 効率的運用						-		-	-
	4.1	モニタリング				-		-	
	4.2	運用管理体制				-		-	
LR2 資源・マテリアル					—	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護					3.0	0.15		-	3.0
	1.1	節水			3.0	0.40		-	
	1.2	雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60		-	
	1	雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00		-	
	2	雑排水再利システム導入の有無				-		-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.6	0.63		-	2.6
	2.1	材料使用量の削減			2.0	0.07		-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24		-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	杭に高炉セメント使用		4.0	0.20		-	
	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	—		1.0	0.20		-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.05		-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み			3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.22		-	3.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	建材については有害物質を含まない材料を選定する		4.0	0.32		-	
	3.2	フロン・ハロンの回避			3.0	0.68		-	
	1	消火剤	使用目的なし 消火器のみ		4.0	0.33		-	
	2	断熱材			2.0	0.33		-	
	3	冷媒			3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境					—	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物と同等			3.3	0.33		-	3.3
2 地域環境への配慮					2.3	0.33		-	2.3
	2.1	大気汚染防止			3.0	0.25		-	
	2.2	温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制			2.3	0.25		-	
	1	雨水排水負荷低減			-	-		-	
	2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.33		-	
	3	交通負荷抑制			3.0	0.33		-	
	4	廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33		-	3.0
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
	1	騒音			3.0	1.00		-	
	2	振動			-	-		-	
	3	悪臭			-	-		-	
	3.2	風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
	1	風害の抑制			3.0	0.70		-	
	2	日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
	3.3	光害の抑制			3.0	0.20		-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	